



## 旧甲州街道を歩く③

日時:2019年9月29日(日) 天候:曇り時々晴れ 25000歩 約17km

集合:京王線芦花公園駅 10時

コース:芦花公園駅→千歳烏山→仙川→つつじヶ丘→柴崎→国領→布田→調布→西調布→飛田給→白糸台→東府中駅

参加者:平山(L) 奥村(SL) 勅使河原 神谷 吉留 平石 熊坂 高橋文 青松 熊島 小林 清水正 小島 栗田 長廣 島 高橋友 鹿島 吉田敬子 計19名

この日は全員バテバテの一日でした！平坦にも拘らず何と17kmとは健脚コース並みで、途中でリタイヤする人も出たほどです。予報が外れ青空が覗き、気温も今の時期にしては高めとなったことも一因かも知れませんが、それにしても距離が延び過ぎました！この旧甲州街道を歩くも今回が3回目、起点の日本橋からは直線で僅か三十数キロ。全行程の二百二十キロを考えると、ゴールの下諏訪はまだ遙か先です。この日は芦花公園駅から東府中駅まで、時折は20号線にも出ながら旧道の面影を残す一里塚を辿りながらのウォークでした。中には私の名と同じ「小島一里塚」や「天然理心流道場跡」、「下・上染屋」という布染に関する碑もあり、今の調布や布田等の名もこれらに由来すると言われます。道程は全くの平坦で、唯一渡った20号の歩道橋がむしろ足には心地がよかったほど。ランチ場所の八雲台公園では、陽射しを避けて思い思いの場所で食べましたが、ここにはあちこちで蚊が待ち伏せしていて、用意の虫除けが大活躍の場面も。飛田給の先には味の素スタジアムがあるためラグビーファンが溢れ、通りには大柄な外人グループが奇抜な格好で闊歩しているのが目立ちました。

この後、山梨県に入ると下諏訪迄は一泊での行程が4回ほどあるそうですが、最後に下諏訪温泉で全員笑顔での打ち上げが出来るかどうか、多摩川を渡ってのこれからが本番となりそうです。

<フォトレポート 小島>



国領神社の藤棚の下。「開運招福・交通安全」の大きな絵馬の前で全員集合。(日陰で若干顔が斑になり失礼しました)



芦花公園駅改札前。適度な人数で集合も楽。



烏山下宿公園で熊坂さんのストレッチ。蚊が多い！



旧甲州街道のヌシ(?) 平山より詳細資料で本日のコース説明。



新会員の吉田敬子さんです。



まずは給田の新一里塚。民家の敷地の角にあるので静かに見学。



### <一里塚>

江戸時代の主要街道の両側に、1里(36町=約4km)ごとに築かれた塚で、路程標の役割を果たした。その起源は古代中国にあり、日本では、平安時代末期に、奥州藤原氏が白河の関から陸奥湾までの道に里程標を立てたのが最初とされている。室町時代の一休が「門松は冥土の旅の一里塚 目出度くもあり目出度くもなくし」との歌を詠んでいる。

慶長9年、徳川家康が江戸日本橋を起点として、東海、東山、北陸の3街道に1里ごとに5間(約9m)四方の塚を築かせ、塚の上にはえのきや松を植え旅行者に便宜を与えた。幕府はのち3街道以外にもこの制度を広め、諸藩もこれにならい脇街道(→脇往還)に築いたこともあったが、その後改修に熱意がなく次第に廃壊し、天明年間(1781~89)頃には原形を失うものも多かったという。明治維新後は道路の改修が進むとともにほとんど除去された



予報に反し青空が覗いてきた。暑いくらい！



マンションの傍を通ると涼しい風が・・・ビル風？



駅名にもなっている仙川を渡る。



可もなし不可もない(?)川・・・



20号線の歩道橋を上る。



天台宗寺院の昌翁寺：大慈山永久院と号する。昌翁寺は、仙川領主の飯高主水貞政（慶長17年1612年寂）が開基、その師快要法印（寛永14年1637年寂）が開山となり創建したと伝えられる。調布七福神の寿老人。



次は派手な曹洞宗の大雲山金龍寺。門前の金色の像が何とも・・・ただ門を入るとごく普通の境内でした。



境内の池には錦鯉が泳ぐ。



大きな亀も甲羅干し中？



可愛いリスもいました。



盲僧の尼僧の妙円地蔵。今も地元の人々からの花が絶えないようです。

### <妙円地蔵>

妙円尼は、俗名を熊といい、武蔵国多摩郡酒井(境)村の六右衛門の長女として生まれました。若くして、金子村(現・調布市西つつじヶ丘・菊野台のあたり)の新助に嫁ぎましたが、恵まれない境遇のうゑに失明してしまい、出家して寿量妙円と名のりました。以後、村びとのために路傍で鉦をたたいては念仏を唱え、集まった浄財でこの地蔵菩薩像を作りました。それから甲州街道のこの地蔵の傍らで念仏三昧の日々を送り、村びとに頼まれては加持祈禱をしました。

文化13(1816)年の春、妙円は村びとに「来年の10月28日に念仏往生をとげる」と告げ、翌年秋には棺桶・帷子(かたびら)などを買ひ整え、10月26日になると村中をまわって、世話になった人びとにお礼をいい、村びとが見守る中、29日に念仏往生をとげました。妙円の墓は、深大寺三昧所にあります。失明後、妙円がたどった運命は、滝沢馬琴の「玄同放言」に詳しく紹介されています。



柴崎を過ぎると野川を渡ること。緑が眩しい。



ヒノキの並木が続く20号。木陰が有難い陽気。

<野川>国分寺市東恋ヶ窪一丁目の日立製作所中央研究所内に源を発し、南へ流れる。西武国分寺線・JR中央本線と交差し、真姿の池湧水群からの湧き水を合わせ小金井市に入り、武蔵野公園にさしかかるあたりから南東に流れ、西武多摩川線と交差し野川公園に入る。小金井市と調布市の間を何度も縫ってその後三鷹市を流れ、再び調布市に入り多摩川へ。



八雲台公園でランチタイムです。ただこの場所、やたら蚊が多く“若い女性陣”は蚊の猛攻に！



ただ蚊にも好みがあるようで、殆ど刺されない人もいましたが・・・その差は何？



食後はあの新選組近藤勇ゆかりの地、天然理心流原田道場跡に。



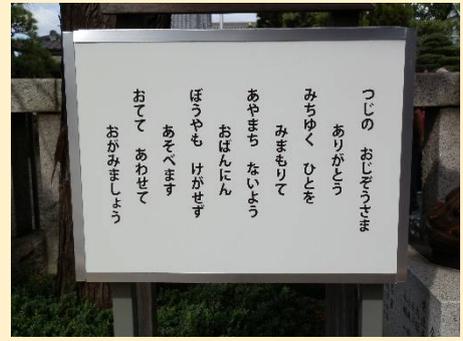
国領神社に到着。ここは藤で知られる神社で、毎年5月頃からは藤祭りで境内が賑わう。



常性寺で小休止。



子育て地蔵も。



まるで童謡の歌詞のよう。



増位山のヒット曲「タ子のお店」？



昭和レトロな路地があった。



鬼太郎で知られる調布の天神通り。



小島町にある「小島の一里塚」。かなり大きな石です。



次は近藤勇座像のある西光寺に入ります。



これが座像。少々地味目ですが・・・



お疲れ気味も山門下で笑顔が溢れています。

この西光寺は、甲陽鎮撫隊で近藤勇が甲州に向かう時、休息を取った寺。近藤勇の故郷の上石原宿にあり、大名格として訪れた近藤勇は故郷に錦を飾った形でした。逸話として残るのは近藤勇だけですが、甲陽鎮撫隊に参加していた洋装姿の土方歳三や、斎藤一、永倉新八、原田左之助も来たと言われます。



何やら人が増えてきたような・・・飛田給駅前。



ラグビーW杯での外国人たち・・・でもハデすぎ！



「起きてる?」「目を瞑っても歩けるのだ!」「・・・?」



このような常夜灯がまだ残されています。



染屋不動尊に寄ります。



ここには下染屋の碑が。まだ新しい。



疲れもピーク、あとどのくらい？



西武是政線の踏切を渡る。



こちらは上染屋の碑。



## <番外編>

今回の旧街道つながりですが、9月28日に旧東海道「しながわ宿場祭り」“花魁道中”を見に行ってきました。先日の<江戸まち散歩>で吉原の花魁について説明しましたが、当時を再現したこの道中には多くの人々が集まり、カメラアングルもままならない中、人混みをかき分けて一眼レフで撮ったスナップです。

この祭りは毎年行われていますので、これを見て興味のある方は是非来年行ってみたい下さい。(詳細説明はナシ)



※毎回選ばれた5人が花魁としてデビュー。その競争率もかなりのものだそうですがこの花魁は唯一の女子大生！



※道中の前にスタート地点に向かう花魁たち。行きは人力車、本番の道中では自分の足で！大変です。



※こちらはややお年をめしておられるようで・・・



※行列の後には「禿」に扮した少女と若衆たちが続く。



※武士に扮した係りがマイク片手に先ぶれを。

最後は懐かしいチンドン屋が盛り立てます。





※道中がスタート。隣の若衆の肩を借りて、外八の字でゆっくりと歩くのはかなりキツイ動き。



※ほとんどのカメラマンが狙うのは、やはり若い花魁でした！



※外八文字での道中は足にかなりの負担、令和の花魁たちは練習を重ねての晴れの舞台となりました。

- 道中出発の2時間前に到着し場所を確保したが、かなり高齢の女性たちも重たい一眼レフで撮っていました。この日は結局3時間半ほど立ちっぱなしだったが、この疲れが翌日の旧甲州街道歩きに影響したのかも・・・

以上ご参考まで。